

異ニレテ大差無之ニ付同格ノ割充金高ニ準シテ戸
金拾八圓宛合金貳千七拾圓貸下ノ義内務大
蔵兩大臣ト協議済昨十九年十一月中指令セシ
末此度前額金負ニ對シ七ヶ年殖利ノ上蚕糸業ニ
從事致シ度上ヨラ以テ其方法收支豫算抵當品等取
調貸下ノ義申立ニヨリ之ヲ調査スルニ事情無余義柄
聞其方法ニ於テモ別ニ不都合無之相當ノ事業ト
被存申立ノ通本年度士族勸業資本金甲部ノ内
ヨリ七ヶ年据置向フ十ヶ年賦無利子返納ノ定メラ
以テ貸下許可ノ義大蔵大臣ト協議ノ上八月十五日
指令セリ依テ指令書并大蔵省調査書相添右報
告ス

明治廿年八月十五日

農商務大臣子爵土方久元



内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

指令

上申之趣聞届候迄ノ通心得ヘシ

明治廿年八月十日

農商務大臣子爵土方久元

一貸下金貳千七拾圓据置及返納年限共最前
指令ノ通り相心得金負受取方更ニ申出
ヘシ

一抵當品ノ義ハ成規ノ手續ヲ經其縣ニ取置
寫差出ヘシ

一事業ノ景况ハ監督通規ニ依リ届出ヘシ

愛媛縣下旧今治藩準卒業業資本金存借願ノ件

右審按スルニ願人等ハ旧今治藩準卒業立藩中ノ身分一既者
 所附松人臺所者作事方下役番手中間松手鉄砲師トアレ
 共明治九年一月愛媛縣申立ニ準卒業ナル者ハ中間既者手
 廻等トアツテ當時其身分ノ詳細ヲ不ニシテ何レモ世襲
 尽ミノト見据ヘ今願ノ申立ニ細ル
 ノ際ヲ為シタリ然ルニ明治四年八月十月及ヒ今五年三
 月ニ於テ旧縣官吏ノ調遣ニ依リ解放セラレシヨリ今七
 年以後復禄ノ義廢ニ歎願ノ末終ニ明治九年一月ニ至リ
 愛媛縣ヨリ当省ハ準卒業ト唱フル者ハ譜代卒業全體ノ者ニ
 有之ヲ旧官吏ノ誤謬ニ係リ解放セラレタル者共ナレハ
 尚精査ノ上復禄相成シトノ申請ニ對シ當省ヨリ願人
 等ノ履歴及ヒ旧記書類取調可差出旨ヲ令達シ縣廳ニ於
 テ精査中終ニ今年才百二十三号公布ニ遭遇シ願意採用
 成ラサリレニ因テ尔未再三歎願ノ末一變シテ今願ニ立

至リシ次才ナリ右ノ事實ニ就テ之レヲ觀レハ明治三年
九月藩制規則頒布後不經伺擅斷ノ所置ナレハ其当時復
祿セサルヲ得ヌ加之旧官吏進退伺書ニ準卒ノ名義ニ泥
ミ誤テ卒外ノ處分ニ及ヒ大藏省ハ届出ノ祿高帳ニ記載
不仕段深ク恐入度云々トアツテ旧官吏ノ失誤顯然タル
上ハ惘然ノ次才ニ有之依之今願ニ於テ内規才ニ款才六
條才一項ニ適當合格ト認定本人申立ノ祿高明治四年八
全五年三月解放時ノ祿高ヲ云フニ基キ同款才十條ニ準拠シ損減金別
紙ニ計算差進度條尚御熟考有之度度也

野木大藏省國債局次長

浦 大藏省記録局長

渡邊大藏省主計局長

明治十九年上月二日

宮島農商務書記官殿
大槻農商務書記官殿

三月二日内務省宛了

秘

徳島縣下の徳島藩稲田郡植家東田存子左印
 以下七百五拾四名一家保ノ身分ニ既服シ金
 兩萬四千五百六十拾四匁銀兩奉トシテ明治
 八年九月申甲部金ノ内ヨリ七ヶ年振立
 向フ控ヶ年賦返納ノ定メテ以テ可成下分控
 金ノ末平年ニ至リ去ル五拾二匁付リ以テ曾
 テ報生セシ通前金額ノ内控者物料取當
 高金五万六千四匁トテ請求シ控金ハ且控下
 金ヨリ公債証書ヲ購入シ之ヲ控者ニ入レ保金
 受取方可申出控者ノ申立ノ要平年ノ控金ハ六
 郡各村ニ散互シ為メニ其同ノ事業ヲ起カント
 スルニ其目的ヲ達スルニ難ク又之ヲ統一スルハ
 乙九回

十七

農高